四年目を迎えた道徳教育研究
横越中、文部省指定研究校に

横越中学校は、昭和四十八、四十九年度文部省指定道徳教育研究学校となっている。

道徳教育といえば、シッケや行動の規制が考えがちであるが、もちろんそのような日常生活の振舞いの仕方も大切である。同校では、それらのもとになる〝ものの考え方感じ方〟をより望ましいものに鍛え、高めていこうとするもの。

同校は、昭和四十六年度から独自で基礎調査（生徒、父母、職員などを対象）をするなどして道徳教育の研究を行ってきた。

指定をうけたのもこういう研究実践の蓄積があってのもの。研究指定は、その地区（下越）や県の教育水準を高めるというねらいがあるが、同校は、研究のための研究でなく地域や生徒の実態に根ざした、同校生徒のための効率的な指導ということを主眼においている。

なお、同校では研究実践の一応の仕上げとして十一月八日（金）にお茶の水女子大学宮田丈夫教授を招いて研究発表会が開催される。

同校ではこの発表会に村民からも、参加していただき理解と批評をいただきたいといっている。

※　※

横越中学校の道徳教育研究テーマ

指導の場	趣旨	文部省指定としての当校研究テーマ
道徳の時間（一週一時間）	主としてものの考え方感じ方を鍛え高める	〈昭四十八年度〉牛徒ひとりひとりに、自律的な道徳意識を高める指導過程の研究
学校の全教育活動	主として実際の行動に表わせる（道徳的実践）	〈昭四十九年度〉学校の全教育活動において道徳的実践力を高めるにはどのようにしたらよいか。

第29回　茨城国体高校籠球
三選手が新潟選抜に出場

（石井選手）

（伊藤選手）

（本間選手）

第二十九回茨城国体は、十月二十日から二十五日まで水戸市を中心に開かれる。

この国体に本村から高校バスケットボールに石井登（3年）、伊藤吉男（2年）、本間喜三（2年）君いずれも新津高校生が新潟選抜選手として出場することになった。

石井君は、昨年の千葉国体に続いて二年連続出場、高校球界のトップリードマン。

伊藤君もリードマンとしてチームの主力選手

本間君は、一・九米の長身を生かしたポストプレイヤーで三選手の活躍が期待される

高校バスケットボールには昨年も本村から平松、和澄（久）、石井、和澄（孝）の四選手が出場し、準優勝を飾ることができたが、今年も劣らない選手団で伝統のバスケットボールを再び新潟県の手にしたいと張り切っている。

八四〇名を招き
敬老会開催

九月十五日「敬老の日」に本村では七十才以上の高令者八四〇名を招き、五ケ所で敬老会が行われた。

式典には、90才を迎えた方に県知事から座ぶとんと賞状が、八十八才を迎えた方には村社会福祉協議会から座ぶとんが、村から金一封が送られた。

また、金婚式を迎えた夫婦には県知事から色紙が送られた。

このあと、高令者を祝福するアトラクションが盛大に行われた。

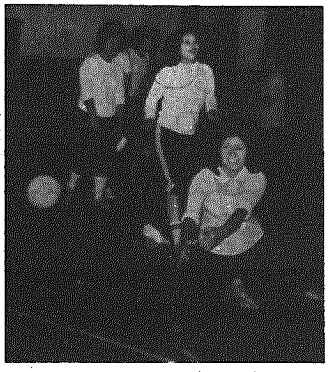
本村の長寿番付
（90才以上9月15日現在　満年令）

星野ミヨノ	97	沢海上	
中村キソ	96	横越中	
桑原イシ	93	木津中	
今井ソメ	92	木津上	
佐藤丸吉	91	〃	
板垣コウ	91	沢海中	
石井ミチ	91	小杉上	
目黒スイ	91	沢海上	
佐藤トシ	91	二本木上	
佐久間ミノ	90	川根谷内	
飯野フシ	90	二本木上	
酒井キサ	90	木津下	
皆川キテ	90	藤山	

文化祭のおもな催しもの

○菊花展
○楽焼展
○芸能大会
○青年作品展
○バザー

女子バレーボールクラブ結成
OL、高校生も参加


練習に励むバレークラブ員

村連青女子部では、このほど青年の同好者を募り、女子バレーボールクラブを結成し毎週木曜日に横越中学校体育館で練習に励んでいる。

村連青女子部がバレーボールクラブを結成したきっかけは、去る七月行われた中蒲青年大会で十数年ぶりに優勝をし、下越大会の出場権を手にしたことから。

下越大会には、第一回戦で五泉市に2対一で惜しくも敗れたものの、山北町、中条町の素晴しいプレーをみて、「私たちもバレーボールをやろう」という気運が高まり九月五日正式に発足されたもの。

現在クラブ員は、15名で青年団員が8名、団員以外3名高校生が4名おり、巾広い青年層で結成されている。

本村の青年女子バレーボールは、かって県大会出場した実績があり、近郷では無敵の強さをほこっていた。

現在では、青年団員の減少で単位青年団単独でチーム結成が出来ないばかりか、郡青年大会となると女子青年団員を寄せあつめ、にわかチームをつくるのがやっとであった。

女子青年バレーボールクラブは、単なるスポーツを楽しむということではなく、高校生や未組織青年との交友を深めることも大きなねらいという。

第三回　俳句作品公募
総合一位に　今井　夫子氏

「稲妻」「朝顔」「花火」を句題に、第三回俳句作品公募を本紙七月号、八月号で行ってきたところ、前回を上廻る三八名、二二八句の応募作品があった。

作品の審査は、野崎芦舟先生（大江山）ら七人の方からあたっていたゞいたほか、初心者の奨成をはかるために、あがきよし先生（横越）ら二名の方から初心者を中心に審査にあたっていたゞいた。

その結果、総合成績で今井夫子氏が一位に、高点句賞には東城素秋氏の句が一位になった。

なお、この公募作品をもとに句集「横笛」3号が発刊された。

◎総合成績

一位　今井夫子　一五点
二位　佐藤志残　一四点
三位　今井秀虹　一一点

◎高点句賞

一位　東城素秋（推せん句3）4
二位　小林竹生（推せん句1）4
三位　佐藤志残（推せん句1）4

高点句（四点以上）

稲妻や米研ぎこぼす船の妻　東城　素秋
味噌を出す手間ともせば稲妻す　小林　竹生
朝顔を咲かせて清貧の日々に生き　佐藤　志残
花火果て星淫む道を戻りけり　今井　夫子
朝顔や新妻すでに野良仕事　泉　八紘
朝顔を窓辺に咲かせミシン踏む　今井　夫子
手花火の青火が庭を明るくす　今井　天花
手花火や瞳の顔を寄せ合ふて　阿部　春吉
線香花火頭な祖父も交りたり　小石　みどり
裏山に人の声して遠花火　佐藤　菁子

こどもサロン

（横越小学校3年　佐藤弘君）

＜評＞　横小　佐藤チル先生

自分の見てきたことを思い切って大きくかく。働いている人のようすをくふうする。などを目あてで、一番楽しい給食の場合をかいたものです。

自分のかこうとしている場面や色の使い方にも、思い切っていています。待ち遠しい給食の準備をしている友だちのふん囲気が感じられる絵です。

（横越小学校3年　中村小百合さん）

＜評＞　横小　佐藤チル先生

はじめての山登りに、胸をはずませ目的地に向う友達のようすが、よく感じられる絵だと思います。特に、だいたんにかいた山、木の細い観察、山を登る一人一人の友だちのしん情がんなようすや、着ている洋服の色にもくふうがなされ、いっそう山登りの気分が思い出されるような絵だと思います。

祝　水と緑のまごころ国体
姉妹村　茨城県　美浦村に
馬術競技開催
S49.10.20～10.25